

2022年度 科学技術社会論学会総会・年次学術大会プログラム

11月26日(土)

【第1セッション】 9:00 - 10:30

A-1-1【OS】遺伝子ドライブを巡る ELSI と DURC

オーガナイザー：藤木 篤（神戸市看護大学）

藤木 篤（神戸市看護大学）

「遺伝子ドライブに関する近年の動向」

四ノ宮 成祥（防衛医科大学校）

「先進生命科学技術としての遺伝子ドライブとデュアルユース問題」

大庭 弘継（京都大学）

「水平線の彼方の遺伝子ドライブ：潜在的ミスユースの指摘」

立川 雅司（名古屋大学大学院）

「遺伝子ドライブに対する消費者意識と自然観」

吉良 貴之（愛知大学）

「先端科学技術のリスク管理の公法的側面と遺伝子ドライブ技術への応用」

B-1-1【GS】防災①（9:30～）

座長：田中 隆文（名古屋大学）

○岡原 正直（大阪府立佐野工科高等学校定時制），平井 俊男（大阪府立長尾高等学校）

「工科高校定時制と普通科高校による防災の視点を持つSTEAM教育教材の開発-個別最適で協同的な学びを保障するために-」

中野 元太（京都大学防災研究所）

「防災オープンサイエンスの国際比較」

城下 英行（関西大学）

「「驚き」をいかに生み出すのか？——防災の双方向の学びの充実に向けて」

C-1-1【GS】科学コミュニケーション

座長：綾部 広則（早稲田大学）

○江崎 和音（立教大学），山口 富子（国際基督教大学），伊藤 京子（京都橘大学,大阪大学）

「ゲノム編集農作物に対する一般市民の態度とその変化—「無関心層」に注目して—」

○河村 賢, 森下 翔, 標葉 隆馬（大阪大学）

「科学コミュニケーションのなかの実践的推論：日本科学未来館オープンラボの相互行為分析」

池辺 靖（日本科学未来館）

「科学コミュニケーションモデルのひとつとしての“新しい知”の伝え方」

D-1-1【GS】オープンサイエンス・オープンイノベーション（9:30～）

座長：横山 広美（東京大学）

○小野田 敬（東京工業大学），伊藤 泰信（北陸先端科学技術大学院大学）

「オープンイノベーションを推進するアカデミア——共創を推進／阻害する認識的文化の考察——」

○山崎 吾郎（大阪大学），一方井 祐子（金沢大学），工藤 充（公立ほこだて未来大学），友尻 大幹（総合地球環境学研究所）

「開かれた知識創出・共有の場はいかに作られるか」

E-1-1【GS】歴史学的アプローチ（9:30～）

座長：河西 棟馬（東京工業大学）

山根 伸洋（早稲田大学）

「馬車輸送の導入と郵便ネットワークの形成—大磯中川家の事例より—」

千葉 庫三（東京工業大学）

「日本の大型研究計画決定過程の変遷 —天文学研究の大型観測装置を例として—」

【第 2 セッション】 10:45 - 12:15

A-1-2 【OS】 サイバネティック・アバター (CA)の社会実装とその課題

オーガナイザー：江間 有沙（東京大学）

江間 有沙（東京大学未来ビジョン研究センター）

「CA を用いた働き方の課題と可能性」

赤坂 亮太（大阪大学社会技術共創研究センター）

「CA の働き方を巡る法的問題とプラットフォームの責任」

馮 茜（大阪大学社会技術共創研究センター）

「CA を通じた国際労働に関わる法的問題」

出井 甫（骨董通り法律事務所）

「CA ワーカーが直面し得る法的課題と実務対応」

C-1-2 【GS】 新型コロナウイルス感染症

座長：藤垣 裕子（東京大学）

本堂 毅（東北大学）

「新型コロナウイルス空気感染をめぐる専門知と専門家」

佐藤 恭子 (Stanford University) , 田中 幹人 (早稲田大学, Univ. of Wisconsin-Madison) ,

○寿楽 浩太 (東京電機大学)

「COVID-19 パンデミックにおける各国社会の対応の比較分析 (2) : 2022 年前半までの
分析結果と日本の状況への示唆」

○横山 広美 (東京大学) , 一方井 祐子 (金沢大学)

「与党・野党支持者による政権のコロナ対策支持・専門家信頼の変容」

D-1-2 【S】 法・倫理・道徳

座長：夏目 賢一（金沢工業大学）

額賀 淑郎（上智大学生命倫理研究所）

「米国国立衛生研究所と研究倫理制度の発展」

萩原 優騎（東京海洋大学）

「情報倫理教育に携わる教員が共有すべき状況認識とその前提となる理論の選択可能性」

中山 敬太（早稲田大学社会科学総合学院）

「先端科学技術の不確実性リスクに対する法と倫理の隣接点」

E-1-2【GS】STSと実践

座長：標葉 隆馬（大阪大学）

○片岡 良美（北海道大学 大学院理学院, 北海道大学 大学院工学研究院）, 中尾 世治（京都大学 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

「学際的な共同研究における異分野間コミュニケーションの実態：申請・審査過程における文書の分析を通じて」

齋藤 芳子（名古屋大学）

「学術系クラウドファンディングの成否要因を探る」

小林 俊哉（九州大学）

「STS ステートメントによる科学コミュニケーションが大学院生の意識に及ぼした長期的効果」

【昼食】 12:15 - 13:45

13:45 - 15:45 大会実行委員会企画シンポジウム

新たなる大学博物館の役割—科学技術教育・史料保存・研究のサイクルについて考える—

場所：西 9 号館 2 階デジタル多目的ホール

講演者：

山崎 鯛介（東京工業大学博物館・副館長）

「東京工業大学博物館の成り立ちとこれから—理工系大学における大学博物館のミッションとは何か—」

多久和 理実（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院・講師）

「東京工業大学における博物館発のリベラルアーツ科目 10 年の歩み」

今村 信隆（北海道大学文学研究院・准教授）

「地域と大学の課題に向き合う、博物館型の知の可能性—北海道大学プラス・ミュージアム・プログラムの試みから」

16:00- 17:00 総会

場所：西 9 号館 2 階デジタル多目的ホール

17:15 - 18:30 柿内賢信記念賞授与式

場所：西 9 号館 2 階デジタル多目的ホール

11月27日(日)

【第1セッション】 09:00 - 10:30

A-2-1 【GS】 ELSI・RRIの(ための)アプローチ

座長：見上 公一（慶應義塾大学）

○西 千尋, 藤垣 裕子（東京大学）

「あるべき分子生物学分野と人工知能分野に関する ELSI、RRI 教育の将来的展望～半構造化インタビューによる検討～」

松山 桃世（東京大学）

「ELSI 論点抽出を目的とした哲学対話の実践と質的分析」

B-2-1 【GS】 市民参加・対話

座長：多久和 理実（東京工業大学）

石川 肇（日本ファシリテーション協会）

「SF プロトタイピングを用いた未来の食生活についての市民対話」

○小林 知恵, 大沼 雅也（横浜国立大学）

「RRI の実践とリードユーザー：効果的な市民参加型ワークショップの構築に向けて」

大澤 康太郎（北海道大学理学院）

「東京都八丈島における市民の研究活動の考察—「市民科学の基盤になる市民科学」に関する試論—」

C-2-1 【OS】 技術と移動性 -国際技術哲学会に向けて (1)

オーガナイザー：直江 清隆（東北大学）

筒井 晴香（東京大学生産技術研究所）

「「歩行者の責任」を考える～自動運転技術の ELSI 検討から」

堀江 幸生（名古屋大学）

「瞬時に繋がりたいあなたト」

鈴木 俊洋（崇城大学）

「遠隔作業技術の哲学 —間接的操作と専門知—」

ディスカッサント：金光 秀和（法政大学）

D-2-1 【GS】 環境

座長：城下 英行（関西大学）

戸田 聡一郎（東北大学）

「有機農法における N2O 排出の減少と収量重視の農家との対話：農家が持つべき規範とは」

○平井 俊男（大阪府立長尾高等学校），岡原 正直（大阪府立佐野工科高等学校定時制）

「淀川水系における複数河川の RpH(Reserved pH) に関する研究」

田幡 琢磨（国立国会図書館）

「気候変動について国会で代表されやすいフレーミングとその要因：英国会における分析から」

E-2-1 【GS】 専門知・専門家・専門的助言①

座長：川本 思心（北海道大学）

久保田 唯史（University College London）

「科学技術政策における Imagined Publics - 日英の有識者会議の分析から」

定松 淳（東京大学）

「政府審議会における説得力の比較——原子力行政の2事例から」

【第2セッション】 10:45 - 12:15

A-2-2 【GS】 福島原発事故

座長：柴田 清

○山口 航平，瀨瀬 一起（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）

「福島原発事故訴訟の判決における科学的知見の認識」

八巻 俊憲（原子力市民委員会原発事故部会）

「福島原発事故と市民性—放射線防護の非市民性—」

林 衛（富山大学）

「福島甲状腺がん多発問題をトランス・サイエンスにしてはならない」

B-2-2 【GS】 生物学

座長：林 真理（工学院大学）

菅原 裕輝（慶應義塾大学理工学部・大阪大学大学院人文学研究科）

「日本のゲノム合成研究前史：研究伝統と科学技術政策に着目して」

猪口 智広（慶應義塾大学）

「生物を創る」生物学における生物観：日本のゲノム編集・合成研究を事例に」

見上 公一（慶應義塾大学）

「生物学における「ダークマター」：比喩表現に秘められた期待」

C-2-2 【OS】 技術と移動性 -国際技術哲学会に向けて（2）

オーガナイザー：七沢 智樹（東京大学）

七沢 智樹（東京大学）

「身体を伴わない移動性—メタバースでの生活がリアル世界に与えるインパクト」

古賀 高雄（東北大学）

「技術と空間の経験」

上杉 繁（早稲田大学）

「移動の拡張 —オンラインコミュニケーションは何を拡張するのか？」

ディスカッサント：直江 清隆（東北大学）

D-2-2 【GS】 政策・行政

座長：小林 俊哉（九州大学）

平田 光司, 高岩 義信（高エネルギー加速器研究機構）

「日本の高エネルギー物理学形成期に見るトランスサイエンスの一側面」

山田 陽太, 神里 達博（千葉大学）

「現代日本における原子力開発体制の検討—2012年以降を中心に」

廣田 英樹（文部科学省国立教育政策研究所）

「PDCA サイクルの本質と戦後日本の軌跡」

E-2-2 【GS】 専門知・専門家・専門的助言②

座長：調 麻佐志（東京工業大学）

奈須野 文槻（東京大学）

「インタビュー調査による公衆衛生におけるコミュニケーション観と専門家助言観の検討と今後の展望」

黒河 昭雄（神奈川県立保健福祉大学）

「非制度的な科学的助言の動態に関する基礎的な考察」

【昼食】 12:15 - 13:45

【第 3 セッション】 13:45 - 15:15

A-2-3 【GS】 人文・社会科学

座長：山口 富子（国際基督教大学）

福本 江利子（東京大学）

「社会のなかの人文科学・社会科学」

渡辺 健太郎（名古屋大学）

「文系学問が役に立っていないと考えているのは誰か」

B-2-3 【OS】 放射線の国連科学委員会（UNSCEAR）と 2020/21 報告書の検証（1）

オーガナイザー：柿原 泰（東京海洋大学）

柿原 泰（東京海洋大学）

「放射線影響をめぐるグレイな科学」

高橋 博子（奈良大学）

「米核実験と UNSCEAR」

藤岡 毅（大阪経済法科大学）

「UNSCEAR 成立の経緯と福島原発事故後の放医研・甲状腺検査評価部会がやったこと」

田口 茂（NPO 放射線安全フォーラム、NPO 市民科学研究室・低線量被曝研究会）

「UNSCEAR 2020/21 報告書に日本側はどう関与したか？」

C-2-3 【OS】 先進生命科学研究のデュアルユース性への応答：教育・コミュニケーションの側面から

オーガナイザー：川本 思心（北海道大学）

川本 思心（北海道大学）

「DURC の「社会性」が顕在化するとき」

河原 直人（九州大学病院 ARO 次世代医療センター）

「科学者倫理からの DURC 再考」

木賀 大介（早稲田大学理工学術院）

「合成生物学の国際学生コンテスト iGEM 等における教育事例」

ディスカッサント：吉澤 剛

D-2-3 【GS】 ELSI・RRI①

座長：神里 達博（千葉大学）

○佐藤 桃子，武藤 香織（東京大学）

「先住民族を対象としたゲノム研究における RRI：海外事例の分析」

○一方井 祐子（金沢大学），横山 広美（東京大学）

「人々は AI の ELSI にどのような懸念をもつか：日本・アメリカ・ドイツを対象とした国際調査」

○武田 浩平（大阪大学），古俣 めぐみ（早稲田大学，東京大学），高江 可奈子（早稲田大学），田中 幹人（早稲田大学），標葉 隆馬（大阪大学）

「新聞記事からみたバイオテクノロジーに関する ELSI/RRI フレーム：遺伝子組換え、再生医療、脳科学の比較」

E-2-3 【GS】 技術・工学

座長：隠岐 さや香（東京大学）

○中尾 悠里（富士通株式会社，東京大学大学院），藤垣 裕子（東京大学大学院）

「技術設計過程における「反射性」の組み込み～ユーザーとの共同デザイン方法論の検討」

夏目 賢一（金沢工業大学）

「都市防空対策における工学者の社会的責任：建築学会についての事例分析」

柴田 清

「社会的意思決定・コミュニケーションのための技術リテラシーのあり方」

【第 4 セッション】 15:30 - 17:00

A-2-4 【GS】 未来技術

座長：直江 清隆（東北大学）

林 慎也（名古屋大学）

「自動運転事故における“報復の空白”と道徳的な運」

七沢 智樹（Technel 合同会社，東京大学，自治医科大学）

「「トランスヒューマン問題」考察——マインドアップローディング研究の社会的受容は可能か——」

鷺江 倫明（名古屋大学）

「ロボットと築く徳のある友情」

B-2-4 【OS】放射線の国連科学委員会（UNSCEAR）と2020/21 報告書を検証する（2）

オーガナイザー：林 衛

林 衛（富山大学科学コミュニケーション研究室）

「「国連」と「科学」の看板をかかげた被害過小評価は許されるか—UNSCEAR2020/21 報告書検証ネットワーク活動から」

本行 忠志（大阪大学大学院医学系研究科）

「推定甲状腺被ばく量の徹底した過小評価のからくり」

黒川 眞一（高エネルギー加速器研究機構）

「UNSCEAR への公開質問と応答からわかった事実—科学のルールから逸脱した権威主義」

八巻 俊憲（福島県民）

「放射線リスク評価における住民の視点の欠落」

C-2-4 【OS】女性への科学教育および工学教育に関する歴史資料の現状と課題

オーガナイザー：多久和 理実

黒田 光太郎（名古屋大学）

「日本における工学女子の誕生—工学部の初期女子学生—」

多久和 理実（東京工業大学）

「東工大における女性への門戸開放と失敗—日本女性初の工学士・折原さだの事例から—」

有賀 暢迪（一橋大学）

「東京女子高等師範学校に由来する物理実験機器コレクションの現状と課題」

古川 安（総合研究大学院大学）

「『津田梅子：科学への道、大学の夢』の経験からみた大学文書館」

ディスカッサント：齊藤 有里加

D-2-4【GS】 ELSI・RRI②

座長：眞嶋 俊造（東京工業大学）

標葉 隆馬（大阪大学）

「ELSI/RRI アセスメントの実践」

○HARTWIG Manuela Gertrud（国立環境研究所），江守 正多（国立環境研究所，東京大学），三上 直之（北海道大学），八木 絵香（大阪大学），松浦 正浩（明治大学）

「脱炭素社会の価値観の交渉：エネルギー技術影響評価枠組の構築における倫理的、法的、社会的価値観の統合の課題」

○森下 翔，河村 賢，標葉 隆馬（大阪大学社会技術共創研究センター）

「生体分子を素材として用いる萌芽技術「分子ロボット」についての ELSI 論点モデルの製作」